

丸亀の子どもたちを健やかに育てるために 保育者として身に付けなければならないこと

《まず、研修について考えてみましょう》

研修ってなあに？

乳幼児期は、遊びや生活を通して生きる基礎となる心情・意欲・態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。幼稚園・こども園・保育所（園）でその重要な時期の子どもを預かり、乳幼児期にふさわしい遊びや生活を充実させていく保育者は、高い専門性が求められる専門職です。専門性を高めるためには、専門職としての基本的な知識、技能を備え、一人一人の子どもの実態や環境に合わせた、その時々々にふさわしい保育の提供や適切なかわりが必要で、保育者は「専門性の向上に努めなければならない」と示されているように、常に質の維持・向上が求められているのです。幼稚園教諭、保育教諭、保育士ともに、日々の研鑽、自己の能力を高めていくために必要なことが『研修』の意義と言えるのではないのでしょうか。

なぜ研修ってしなければならないの？

幼稚園・こども園において、教育基本法の中で研修の充実の必要性が記述されています。

教育基本法

第九条 法律に定める学校の教員は自己の崇高な使命を自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない

また、児童福祉法では、保育所の職員に対して必要な知識等の修得に努める義務と施設に対しては研修機会を職員に確保する義務が言及されています。さらに改定保育所保育指針では、施設長が保育所内外の研修の体系的、計画的に行うと示されています。（第5章 職員の資質向上）

児童福祉施設の設備及び運営に関する基準

第七条の二 児童福祉施設の職員は、常に自己研鑽に励み、法に定めるそれぞれの施設の目的を達成するために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努めなければならない。

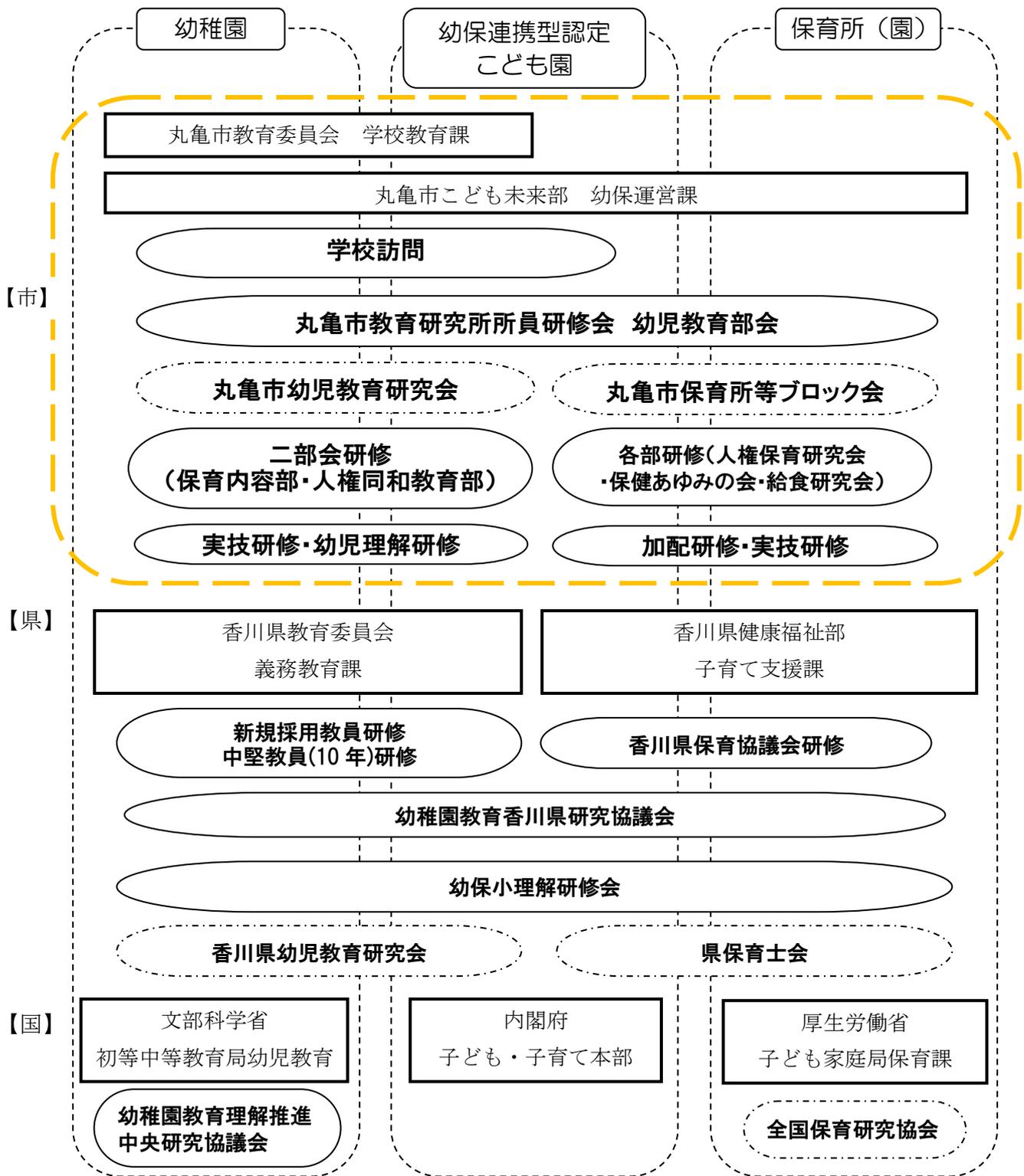
2 児童福祉施設は、職員に対し、その資質向上のための研修の機会を確保しなければならない。

いずれも保育者自身の自己研鑽とそれを支える研修の機会の保障や充実が大切であるとされています

《研修体制を見直してみました》

今回見直す対象の研修体制

現在ある研修体制を知っていますか？



研修における課題は何でしょう？

- * 研修は大切だと思うけれど、園（所）外での研修に参加することは、なかなか難しい。
- * いろいろな研修がたくさんあり過ぎて、どんな研修を受ければいいのか分からない。
- * 研修が大切ということは分かるけれど、日々の生活に追われていて気持ちの余裕もないし時間もない。
- * 一方的な話を聞くだけでは、その時は分かったつもりでも日常保育には活かせない。

《丸亀市の新しい研修体制を考えてみました》

どんな研修体制が必要なのでしょう？

幼児教育の推進体制構築事業(平成28年度～)

— 現状の課題を克服するために — (1、2年次) ☆新たな取組としての研修
〔対象者：幼稚園教諭・保育教諭・保育士〕〔対象エリア：公立・市立〕

自分の感じている課題
を克服するためにはどう
すればいいの？

保育の課題に向う研修

個々の保育を振り返り
自己研鑽する研修
(問題解決の突破口)

☆課題別研修

特別支援教育・保健関係・表現活動
人権・同和教育・安全教育

遊びの見取りや方向
付け、幼児の内面理解や
個々の発達課題って
どういうこと？

課題に向かって 積み重ねていく研修

保育の本質を学び
意欲を育てる研修
(基礎・基本づくり)

教育研究所所員研修

(幼児教育部会研修)

公開保育・保育検討
カンファレンス

『育てたい10の力』の検証

経験年数だけ重ねて
いるけど、自信が
ないなあ・・・

次世代リーダーの 育成研修

経験年数に応じ、保育の
要となる人材育成研修
(将来を見越して)

☆ミドルリーダー研修

教頭・副園長研修会
副所長研修会
保育担当者研修

どうすればいいのか
全く分からない・・・
誰か助けて！！

若年育成研修

若い保育者を育て、
幼児教育を継承する人材
を育てる研修
(サポート体制の充実)

新規採用保育者研修

☆若年保育者研修

(県) 新規採用教員研修 (年10回)
(市) 若年教員研修 (年2回)
(市) 新規採用保育士研修 (年7回)
指導員・アドバイザー派遣

一人一人の子どもに
どのように
かかわればいいのか？

専門性を高めていく 研修

専門分野や得意分野を
育成し、園(所)を活性化
していく研修
(専門性を磨く)

☆スキルアップ研修

教材研究
・絵本の読み聞かせ
・運動・造形・環境づくり
園(所)長研修会

研修の基礎は

園内研修の充実

- * 保育カンファレンス
- * 実践事例検討
- * 教材研究
- * 研究保育
- * 語り合い
- など

※このリーフレットでの園内(外)研修は、各施設における施設内(外)研修のことを示しています

園内研修を充実するために

**何よりも大切な研修は
日々の園内研修です！**

園外での研修を、
園内で活かすために
は、どうすれば
いいの？

園内研修の進め方や
取り組み方が、あまり
よく分からない

園内研修に全員の
職員が参加する
ことは難しい

- 日々の保育の振り返りを心掛けると、自分の保育の課題が見えてきます。
- 保育を記録に残すことで、頭の中で遊びが整理され、子どもの心の動きや保育者のかかわりが見えやすくなります。
- 記録を持ち寄って研修することで、園（所）全体の生活が共通理解されていきます。
- 毎回、全員が参加できなくて、数人での保育の語り合いでも、十分な研修につながります。
- まずは話し合う雰囲気づくりを！園内研修は、学び合う・チームワーク構築の場です。

こんな支援体制もできています

- 幼児教育指導員派遣事業（主に市としての取組）
基本的には希望する園（所）に、経験豊かな幼児教育指導員（県及び市のアドバイザー等）が訪問し、園内研修会の取り組み方を指導したり、園内研修をとおして具体的なアドバイスをしたりする事業を展開しています。
- 幼児教育支援員派遣事業（主に県の取り組みを活用）
日常的な園内研修だけでなく、園（所）が抱えている課題に対して、専門的な知識をもった指導員（大学及び（県）義務教育課幼児教育担当者等）の具体的な指導・助言を生かし、園（所）内の職員の意識改革や意識の高揚に役立てる事業を展開しています。

《さあ、できることから始めてみましょう！》

**あなたが学ぼうと思ったとき、
あなたが学びたい研修に
あなたの手が届くことをめざして！**

『トップダウンの研修』から 『ボトムアップの研修』へ
～ やらされる研修からやりたい研修への変革 ～